

新型コロナウイルスに対する取組

【業務全般】

各センターとも、国の緊急事態宣言に合わせ、移動を避け、テレワークを中心とした業務を行った。

その後も職場内では新型コロナウイルス感染症予防対策を施しながら、部分的にテレワークを取り入れている。

センター間の会議等は Web 会議を中心としている。

【調査・研究事業】

既に計画されていた調査・研究事業は予定通り遂行されている。研究に係る委員会等のミーティングでは Web 会議を利用している。

厚生労働省の老人保健健康増進等の追加事業「認知症カフェにおける新型コロナウイルスの影響と緊急事態宣言等の状況下における運営のあり方に関する調査研究事業」を仙台センターが担うことになり、現在遂行中である。

東京センターでは運営費研究として「Web を使った認知症地域支援関係者の学習及び活動支援に関する研究事業：COVID-19 による学習・活動影響の最小化とよりよい環境整備に向けて」を立ち上げ、現在遂行中である。

研究成果の一般市民向けの発表の場である各センターのケアセミナー等の一部は中止ないしはオンライン化された。

【研修事業】

認知症介護指導者養成研修（集合研修）は集合を避け、他形式で開催することも模索したが、介護報酬に直結する研修でありながら従来型の研修と等価であることの確証が得られないことや、準備や時間に労力が掛かり過ぎることなどから、東京センター、大府センターでは 1 回目、2 回目、仙台センターでは 1 回目の認知症介護指導者養成研修を取りやめた。

東京センター、大府センターの 3 回目、仙台センターの 2 回目の研修、およびフォローアップ研修は現時点では開催予定であるが、状況によっては中止される可能性もある。

東京センターが行っている全国レベルでの認知症地域支援推進員研修は全国各地で都道府県をまたいでの研修になることやグループワーク等を伴う集合研修であることなどから令和 2 年度に行う全ての研修が中止された。

大府センターの若年性認知症支援コーディネーター初任者研修は Web を利用しリモート開催することにし、現在準備中である。フォローアップ研修については現時点で開催予定であるが、今後の状況では変更もありうる。

仙台センターが行う認知症カフェモデレーター研修は中止となったが、大府センターのDCM研修は、現時点で新型コロナウイルス感染予防対策を施した上で開催予定である。

【地域の介護人材との連携】

1) 認知症介護指導者（以下介護指導者）を通じた情報収集と共有

認知症介護研究・研修センターが養成している介護指導者のネットワークを通じ、以下の取り組みを行った。

① 各地区のネットワークの世話人に介護現場の状況を電話取材した。

② その結果を参考に、全国の介護指導者 2,410 名に「認知症介護現場における新型コロナウイルス感染症対策の現状と対応の工夫」に関する緊急アンケート調査を行った。

期限内に返信のあった 767 名（回収率 32%）の回答では、面会制限や外出自粛要請下での認知症の人には「家族に会いたがる」、「イライラする」等の BPSD、さらに健康状態の悪化等の影響があらわれていた。これに対し、介護指導者を中心としたケア現場では、感染対策の徹底を図りつつ、面会方法の模索や DVD 鑑賞等、認知症の人が安定できるケアの工夫がなされていた。一方、通所サービスや認知症カフェの休止等による在宅介護の家族の負担増加に対し、ストレスマネジメント等が行われていることも明らかになった。

人材育成の面からは職場における研修等の中断・不足の実態も明らかになり、今後のサービスの質に悪影響を及ぼす可能性もあるのではないかと思われた。

2) 若年性認知症支援コーディネーター（以下コーディネーター）を通じた情報収集と共有

大府センターが運営する全国若年性認知症支援センターでは 47 都道府県、5 指定都市に設置された 77 相談窓口配置されたコーディネーターに対し「新型コロナウイルス感染症対策下における若年性認知症支援コーディネーターの活動」に関するアンケート調査を行った。

期限内に返信のあった 72 名の回答では 82% のコーディネーターで自身の活動に支障を生じていた。

個別相談事業では、訪問を避ける中で電話やメール、リモート相談などの工夫によって相談事業を継続している例が多かった。

研修会等の啓発活動や交流会等は、全国各地で中止や延期の状況が続いているが、人との接触を伴わない形での啓発活動や、感染症対策を施した新たな形で再開する動きもみられた。

一方、今回の事態が若年性認知症の人や家族に与える影響も大きく、職場環境の変化や活動している機関の利用制限等により、本人、家族ともにストレスが発生している状況もあった。これらに対し、様々な工夫をしつつ細やかに支援を続けるコーディネーターの活動も報告された。